

## 11 月歴史文研修会・報告

## 葛城氏Ⅱ

中井 弘



11月6日(火)、夜来の雨も上がり、出発時には青空が広がり始める歴史文研修会。参加者は定員の27名、マイクロバスで定刻の8時に出発する。

今回のテーマは、4世紀末から5世紀にかけて、金剛・葛城山麓一帯を本拠とし、大王家に比肩する権勢を誇った大豪族・葛城氏の実像に迫ろうという企画である。

まずは、**橿考研付属博物館**での勉強。葛城氏の本拠地の御所市、葛城市で発掘された各種の埴輪や土器などの出土品が、数多く展示されており、ガイドの解説と質疑を交え、じっくり見学する。

ついで、バスは御所市柏原へ。**掖上鍬子塚古墳**は、墳長149mの前方後方墳、5世紀後半の築造である。竪穴式石室に長持形石棺があり、盗掘をうけているが金銅製垂飾や帯金具などが出土し、中国・朝鮮との関係が窺えるという。被葬者は不明だが、葛城円大臣との説もある。

次の目的地、**室宮山古墳**は5分の距離にある。墳丘長238m、葛城地域最大の前方後円墳で、5世紀初頭の築造。葛城地域に君臨した大首長の墓に相応しい威容で、葛城襲津彦を被葬者とする説が有力である。後円部の石室の上から出土した甲冑・靱・盾・家形などの埴輪は、橿考研の主要な展示物となっている。「かもきみの湯」で昼食。

金剛山麓の**高鴨神社**へ。ここは鴨氏一族の氏神であり、京都の賀茂神社を始めとする全国の鴨社の総本宮と称している。葛城には鴨社3社があり、高鴨神社を高鴨社、葛城御歳神社を中鴨社、鴨都波神社を下鴨社と呼ぶ。本殿は室町時代の代表的神社建築で重要文化財。有名な「日本桜草」は、2千鉢以上もあり、4～5月が見ごろである。

県道30号線を北上して**極楽寺**へ。眼下に**南郷遺跡群**が広がる。2.4km<sup>2</sup>の巨大集落跡である。5世紀中葉に営まれ、居館跡をはじめ、高殿や水の祭祀場、大型建物、工房、倉庫などの施設跡や建物跡が検出された。

高殿で有名な**極楽寺ヒビキ遺跡**は、農道を下つ

た稲田にある。事前に地主のご了解をいただいております。立ち入り見学する。高殿の復元模型は橿考研博物館で見てきたので、室宮山古墳の家形埴輪そっくりの巨大な高殿がここに建っていた、と想像しながら一同歴史ロマンに浸る。

ここ南郷遺跡群では、支配者葛城氏による祭りが行われ、渡来人技術者が優遇されて、彼らの指導のもとに手工業の工業団地が営まれ、これが葛城氏の勢力と繁栄の源となったとされる。古川さんは鴨神遺跡で見つかった堅牢な道路は、風の森峠を経て紀ノ川から瀬戸内を経て朝鮮半島と繋がりを、繁栄の基盤となったであろうと……。

繁栄を極めた葛城氏は5世紀の後半に凋落する。大王による全国支配を進めるヤマト王権は、政治の中枢から大豪族の葛城氏を排除する。允恭天皇時代、襲津彦直系の孫、玉田宿禰が誅殺される。その子の円大臣も雄略天皇により反乱の罪で焼き殺されて、葛城本宗家はここに滅亡する。

**飯豊天皇埴口丘陵**へ。被葬者は葛城の血をひく飯豊皇女。雄略天皇没後の権力の空白時代に政治を行つたと伝えられ、宮内庁では「陵」に指定。

最後は鴨氏の祀る**鴨都波神社**。田積さんの話、「争いを好まなかった鴨氏は、全国に散って各地で鴨社を営んだ」との解説に、納得する。

神社の敷地一帯は**鴨都波遺跡**で弥生から古墳前期まで継続して営まれた拠点集落跡。**鴨都波1号墳**は、一辺20m、古墳時代前期の方墳である。三角神獸鏡はじめ装身具、鉄剣など、武器・武具類など豪華な品が出土し、話題を集めた。

ここで、葛城氏を訪ねた歴史ロマンの旅は終了。一路帰途につく。奈良駅到着 16時10分。

## 極楽寺ヒビキ遺跡 高殿跡

